

教育研究上の目的

文芸文化学科は、人間教育の基盤となることばの力を磨き、文化・芸術を深く洞察して、人として知的に成熟することを目指す人材を育成するとともに、急激に変動する未来社会において、ゆるぎない自己を確立し、相手を慮る力を発揮して、グローバル社会の中で、多様な文化背景を持つ人々と共に生き抜くことのできる心豊かな人材を育成することを教育研究上の目的とする。

学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

文芸文化学科では、教育研究上の目的を達成するために、次の学生像を人材育成の方針とする。

1. ことばを中核とした多様な芸術・文化・社会への深い理解と洞察力をもっている。
2. 身近な芸術・文化・社会の営みを体験しながら他者とともに学びあい、確かなことばで表現し発信することができる。
3. 多様な文化環境を有する社会において、人間理解に基づく幅広い知識とその知見を生かし、新たな文化・芸術を創造・発信することができる。

そのうえで、次の資質及び能力を有している者に「学士（文学）」の学位を授与する。

①知識・技能

1. 社会人として求められる日本語運用能力、語彙力、文字知識を身につけている。
2. 日本と世界の文学・芸術・文化に関する幅広い知識を身につけている。
3. 現代社会の多様性を理解し他者と協働するための技法を身につけている。

②思考力・判断力・表現力

1. 自己と自文化について考え、客観的に分析することができる。
2. 他者と他文化を受け入れ、共感的に分析することができる。
3. 多様な文化・芸術を読み解き、基礎的な技法を用いて表現することができる。

③主体性・多様性・協働性

1. 研究課題に関する効率的な情報の収集を行い、的確に分析することができる。
2. 自らの研究課題を発見し、それを幅広い視野から深く考察することができる。
3. 文化や社会に対する新たな価値観や視点を創造し発信することができる。

教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

文芸文化学科では、人間と言葉への理解を深めるとともに、多彩な表現活動の意味を認識し、文化・芸術の創造的な働きや豊かな広がり、及びその価値を感得し、多様な文化環境を有する社会へ新たな文化・芸術の創造・発信に結びつく段階的なカリキュラムを設定している。

- ・ 1年次では、アカデミック・リテラシーと言語運用能力を涵養し、進級後の専門学習に必要となる基礎的な知識・技能を身につける。
- ・ 2年次では、思考力、判断力、表現力、分析力、情報処理能力、コミュニケーション能力を養うPBL型演習科目「文芸文化ゼミ」を軸に、1年次で修得した知識・技能をさらに発展、拡充させ、さまざまな文化や芸術を対象とする研

究に応用することを通して、主体性・多様性・協働性を身につける。また、3年次のコース選択に備えるため、幅広い領域にわたる学科専門科目や「ワークショップ科目」の履修により、1・2年次に多様な文化・芸術に触れることで自己の興味・関心のあり方を見定める。

- ・3年次では、「日本語・日本文学コース」「多文化理解・共生コース」「芸術・文化コース」のいずれかを選択し、少人数制の演習科目「文芸文化テーマ研究ゼミ」の履修により専門分野へのさらなる考究を深め、4年次の「卒業研究」への取り組みに結びつける。
- ・4年次では、学びの集大成として「卒業研究」において卒業論文、卒業制作に取り組み、その過程で課題発見・解決力や論理的思考力を身につける。

そのための教育課程の編成方針は以下のとおりである。

日本語科目

1. 文化・芸術を深く洞察するため、日本語に関する基礎知識を修得させる。
2. 多様な文化・芸術を踏まえながら、日本語に関する基礎知識を論理的に他者に説明できる技能を育む。
3. 地域・社会に関する諸課題に結びつけながら、日本語に関する知識を相互に関連づけて理解させる。
4. 日本語に対して、自らが客観的に考察できる能力を育成する。
5. 日本語に対する興味・関心を発見し、他者とともに論理的に思考・表現できる技法を習得させる。
6. 日本語に関する基礎知識を基盤に、論理的に思考・表現できる能力を育成する。
7. 日本語に対して持続的に探究する態度を養う。
8. 日本語に対して他者とともに探究する意欲を養う。
9. 日本語に関する課題を主体的に設定する姿勢を養う。

ことばの科目・ワークショップ科目

1. ことばを中核とした多様な芸術・文化・社会の基礎知識を修得させる。
2. ことばを中核とした多様な芸術・文化・社会の基礎知識を論理的に他者に説明できる技能を育む。
3. ことばを中核とした多様な芸術・文化・社会の知識を相互に関連づけて理解させる。
4. 確かなことばで主体的に表現し、客観的に考察できる能力を育成する。
5. ことばに対する興味・関心を他者とともに発見し、論理的に思考・表現できる技法を習得させる。
6. 地域・社会に関する諸課題に結びつけながら、他者とともに思考・表現できる能力を育成する。
7. 自己の興味・関心を基盤に、持続的に探究する態度を養う。
8. 他者とともに探究しあい、成果を表現し、発信する意欲を養う。
9. ことばを中核とした多様な芸術・文化・社会に対する課題を他者と協働しながら設定する能力を育成する。

日本語・日本文学科目

1. 日本語・日本文学に関する基礎知識を主体的に修得させる。
2. 日本語・日本文学に関する基礎知識を論理的に他者に説明できる技能を育む。
3. 多様な側面から日本語・日本文学に関する知識を相互に関連づけて、地域・社会に関する諸課題への理解を養う。
4. 日本語・日本文学に対して、客観的に分析できる能力を育成する。
5. 日本語・日本文学に対する興味・関心を発見し、論理的に思考・表現できる技法を習得させる。
6. 日本語・日本文学に関する基礎知識を基盤に社会の諸課題に関心を持ち続け、論理的に思考・表現できる能力を育成する。
7. 自己の興味・関心を踏まえ、持続的に日本語・日本文学に対して探究する態度を養う。
8. 自己の興味・関心を踏まえ、他者とともに日本語・日本文学に対して探究する意欲を養う。
9. 日本語・日本文学に関する課題を主体的に設定することができ、他者と協働して複眼的に諸課題に対して取り組む能力を育成する。

多文化理解・共生科目

1. 多文化理解・共生に関する基礎知識を主体的に修得させる。
2. 多文化理解・共生に関する基礎知識を論理的に他者に説明できる技能を育む。
3. 多様な側面から多文化理解・共生に関する知識を相互に関連づけて、地域・社会に関する諸課題への理解を養う。
4. 多文化理解・共生に対して、客観的に分析できる能力を育成する。
5. 多文化理解・共生に対する興味・関心を発見し、論理的に思考・表現できる技法を習得させる。
6. 多文化理解・共生に関する基礎知識を基盤に社会の諸課題に関心を持ち続け、論理的に思考・表現できる能力を育成する。
7. 自己の興味・関心を踏まえ、持続的に多文化理解・共生に対して探究する態度を養う。
8. 自己の興味・関心を踏まえ、他者とともに多文化理解・共生に対して探究する意欲を養う。
9. 多文化理解・共生に関する課題を主体的に設定することができ、他者と協働して複眼的に諸課題に対して取り組む能力を育成する。

芸術・文化科目

1. 芸術・文化に関する基礎知識を主体的に修得させる。
2. 芸術・文化に関する基礎知識を論理的に他者に説明できる技能を育む。
3. 多様な側面から芸術・文化に関する知識を相互に関連づけて、地域・社会に関する諸課題への理解を養う。
4. 芸術・文化に対して、客観的に分析できる能力を育成する。
5. 芸術・文化に対する興味・関心を発見し、論理的に思考・表現できる技法を習得させる。
6. 芸術・文化に関する基礎知識を基盤に社会の諸課題に関心を持ち続け、論理的に思考・表現できる能力を育成する。
7. 自己の興味・関心を踏まえ、持続的に芸術・文化に対して探究する態度を養う。
8. 自己の興味・関心を踏まえ、他者とともに芸術・文化に対して探究する意欲を養う。
9. 芸術・文化に関する課題を主体的に設定することができ、他者と協働して複眼的に諸課題に対して取り組む能力を育成する。

ゼミナール・卒業研究

1. 人文科学の知識と技能を基盤に、複眼的な視野から新たな専門知識を修得させる。
2. 自己の関心に基づく研究課題を自ら設定できる能力を育成する。
3. 研究課題を解明するための人文科学の基本的な研究方法を習得させる。
4. 人文科学の知識と技能を基盤に、客観的に分析するために必要な論理的思考力を育成する。
5. 人文科学の実践的研究を通して、他者に対して論理的・客観的に表現するプレゼンテーション能力を育成する。
6. 研究課題に対する論理的・客観的な思考力と表現力を養う。
7. 人文科学の知識と技能を基盤に分析した結果・知見を地域や社会に結びつけ、還元する姿勢を養う。
8. 自己の関心に基づく研究課題を解明するために、他者とのラポールを形成し、複眼的視点から考察する能力を育成する。
9. 研究課題に対して、持続的かつ主体的に取り組む意欲と態度を養う。

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

文芸文化学科では、学園歌「身をきたへ 心きたへて 世の中に たちてかひある 人と生きなむ」の精神に基づき、教育研究上の目的と教育内容を踏まえたうえで、次のような点を評価して入学者を受け入れる。

1. 言葉を有する人間が生み出した文化・芸術に知的な好奇心を抱き、それを追究するための深い洞察力を得たい。
2. 多様な文化的背景をもつ人々との協働を視野に、論理的な思考力、柔軟な発想力、的確な表現力を身につけたい。
3. 生涯を通して持続可能な教養を身につけ、新たな文化・芸術を創造する意欲がある。

また、入学後の学修の基盤として、次の知識や能力が求められる。

①知識・技能

1. 文化・芸術を追究するための幅広い教養と、すべての教科・科目に関する基礎的な知識・技能を身につけている。
2. 文芸文化学科での専門的な学修や中学・高等学校教員免許状（国語）に関する学修を行うために必要となる基礎的学力を身につけている。
3. 高等学校の「現代の国語」「言語文化」（国語総合）において達成すべき日本語力を用いて、会話表現や文章表現に関する基礎的知識を身につけている。

②思考力・判断力・表現力

1. 幅広い領域に興味・関心を持ち、自ら課題を設定することができる。
2. 必要な情報を整理し、論理的にまとめることができる。
3. 固定観念にとらわれることなく、多様な意見を踏まえながら、自らの意見を表現することができる。

③主体性・多様性・協働性

1. 文化・芸術について自ら考え学ぼうという意欲がある。
2. 多様な文化的背景を持つ他者を尊重し、異なる考えを受け入れつつ、自らの意見を表現できる。
3. 正解がない課題に対して、他者と意見を交換することで、よりよい価値を生み出す意欲がある。